

両日とも開催!

◆ブース展示

本館・ネイチャーホール・ポーチなどで、出展団体による活動紹介や標本などの展示、自然をテーマとした参加体験型の工作・ゲームコーナーなど。生き物をモチーフとした作品の販売もあります。

◆ワークショップ

様々な自然保護教育プログラムを実施します。受付は各ブースで行います。

◆世界の双眼鏡・望遠鏡が勢揃い

ケンコー、コーフ、ツァイス、ニコン、ベルボン、リコーなど、各社の双眼鏡・望遠鏡、三脚用品が勢揃いします。場所：自然史博物館 玄関前ポーチ

講習会・体験講座・その他

当日受付：予約不要 / 集合場所：博物館 玄関前ポーチ(クジラの下)

17日

土

叶内拓哉とバードウォッチング

野鳥写真家の叶内拓哉さんを講師に迎え、長居植物園内でバードウォッチングをします。

11月17日(土) 10:30~11:30 / 参加費：無料 / 定員：先着50名

叶内拓哉 野鳥の話 アレコレ

野鳥写真家の叶内拓哉さんを講師に迎え、野鳥撮影はもちろんのこと、豊富な経験・知識を基にした野鳥に関する話を聞くことができます。

11月17日(土) 12:30~14:00 / 参加費：無料 / 定員：先着30名

※上記は、講師：叶内拓哉氏(野鳥写真家) / 主催：興和光学株式会社

森のカタクリ連れ去り事件

～弁護士が証す;ネイチャー事件簿～

「私は自然が好き」と言っても、自然への接し方は千差万別。でもその行為が法を侵していたら…ネイチャーサイエンスカフェから森林法へのアプローチ。

11月17日(土) 10:00~11:30 / 参加費：無料 / 定員：先着30名

講師：井上 陽氏(弁護士) / 主催：公益社団法人大阪自然環境保全協会

シンポジウム

大阪の生物多様性を求めて

～淀川水系の魚類を中心として～

水生生物は日常目にする事が少ないため、実物展示が大変効果的であり、展示・教育・啓発施設の充実が求められます。そのための方策について考えます。

11月17日(土) 14:00~16:30 / 参加費：無料 / 定員：先着50名

講師：綾 史郎氏(大阪工業大学・名誉教授)ほか

主催：公益社団法人大阪自然環境保全協会

18日

日

はじめての鳥みたい(隊)!(探鳥会)

長居植物園内でバードウォッチングをします。野鳥を観察することが初めての方、まだまだ経験のない方も大歓迎です。

11月18日(日) 10:30~12:00、13:30~15:00

参加費：無料(ただし植物園入園料が必要) / 定員：各回先着50名

主催：日本野鳥の会大阪支部

17日・18日

土・日

ビオトープの生きものを探そう

博物館のバックヤードにあるビオトープで、植物の観察や昆虫などの生きもの探しをしてみましょう。友の会評議員がやさしく案内するので、小さなお子さんから大人まで参加できます。

11月17日(土)・18日(日) 11:00~12:00、14:00~15:00

参加費：無料 / 定員：各回先着30名 / 主催：大阪市立自然史博物館友の会

谷口高司鳥絵工房「谷口高司のタマゴ式鳥絵塾」

野鳥図鑑で有名なイラストレーター、谷口高司氏による楽しい鳥の絵の描き方講習会です。

参加費：1,000円(画材代) / 定員：各回先着30名 / 主催：谷口高司鳥絵工房
その他：画像の持込不可、写真撮影禁止、保護者の同席不可。小学3年生以上であればどの講座も参加できますが、講座は対象年齢に合わせた内容で実施します。

- [小学6~3年生:エナガ]
- ・ 11月17日(土) 14:30~15:30
- [小学6~3年生:メジロ]
- ・ 11月18日(日) 11:00~12:00
- [大人~中学生:モズ]
- ・ 11月18日(日) 13:00~14:00
- [大人~中学生:ルリビタキ]
- ・ 11月18日(日) 14:30~15:30



「タマゴ式」鳥絵塾より©T.Taniguchi

オリジナル
野鳥缶バッジ
プレゼント!

講演・シンポジウム

当日受付：予約不要 / 参加費：無料 / 会場：自然史博物館本館 講堂

17日

土

講演会

125年ぶりの大発見! 新種カクレマンボウの謎を追え!

マンボウ属は最新の分類学的研究で3種が確認されています。2017年に発表された新種カクレマンボウがどのように発見されたのか、その歴史を紹介します。

11月17日(土) 11:00~12:00 / 講師：澤井 悦郎氏(マンボウなんでも博物館)
主催：マンボウなんでも博物館

講演会

足環物語を越えて、地域がつながる、 世界がつながる

かけだしのバンダーだった私が出会ったのが、1978年から79年にかけて京都の鴨川や岸和田市の久米田池で見つかったロシアリングをつけたユリカモメでした。それをきっかけとして、それから40年間にどのような世界が広がったのか、鳥類標識調査活動がどんな役割を持つのかを語りたと思います。

11月17日(土) 14:00~16:00 / 講師：須川 恒氏(日本鳥類標識協会 会員・龍谷大学非常勤講師) 講師のほかにゲストスピーチあり
主催：日本野鳥の会大阪支部

出展団体

アイサーチャージャパン(国際イルカクジラ教育リサーチセンター)、芥川倶楽部&くあびあび川、雨水利用
内界いきものびより、池田・人と自然の会、伊丹市昆虫館、伊丹市昆虫館友の会、京木 高橋自然に親しむ会、
大阪市環境局環境施策部環境施策課、公益社団法人大阪自然環境保全協会、公益社団法人大阪自然環境
保全協会、海の観察会連絡会、認定特定非営利活動法人大阪自然センター、大阪市立自然史博物館友の会、大阪自然環境
ネットワーク大阪支部、大阪府環境局環境部環境課、大阪府立長野高等学校、大阪変形画おっかかけ隊、大阪みどりのトラスト
協会、御菓子司津村屋、乙田耕田クラブ、カルツァイス株式会社、福原市昆虫館友の会、河内長野野鳥の会、一般社団法人環境事業
協会、関西広域連合、関西自然保護機構(KONIC)、関西バードカービングクラブ、関西野生生物圏クラブ(KaINAC)、さしわた自然資料
館、さしわた自然友の会、さのこ好きのためのキノコサロン、岐阜県立森林文化アカデミー、協栄産業株式会社、NPO法人共生の森、恐
竜愛好会ジェラシックパーク、近畿地学会、近大ホネホネと株式会社アカアアイベント、くまはち造形雑貨店、株式会社ケンコー、ト
キ、神戸市立須磨海浜水族園ボランティア、興和光学株式会社、こはみつ亭、Scientific Idea、さえずり本館、堺市自然観察会サ
ンパプロジェクト、In大阪、Shelly Ocean、鹿100頭に贈りました、自然環境研究オフィス、NPO法人信太の森FANクラブ、ジュニア保護者カン
パニオンセンター、ジュニア自然史クラブ、知床トラスト、知床トラスト協会、全国カヤネズミネットワーク、谷口高司鳥絵工房、丹波市役所、読者
環境会議、STUDIO SAIZU、公益社団法人生態系トラスト協会、全国カヤネズミネットワーク、谷口高司鳥絵工房、丹波市役所、読者
観光興業、TEAMあしひ、地学団体研究会大阪支部、鳥類標識調査グループ、関西、NPO法人東洋編織研究所、友の会読書サー
クル、Books、有限会社ナチュラリー、なにかわホネホネ、奈良つばめくら子ども研究部、奈良教育大学自然環境教育センター、株式会社
ニコイメーシングジャパン、読書公園フォレスト、西日本自然系博物館ネットワーク、西淀自然文化協会、日本自然保護協会自然
観察指導員大阪連絡会、日本チョウ類保全協会、日本バードカービング協会、特定非営利活動法人日本バードレスキュー協会、公益財
団法人日本野鳥の会、日本野鳥の会大阪支部、日本野鳥の会京都支部、日本野鳥の会滋賀、ねむるバードランドフェスティバル実行委
員会、寝屋川市自然を学ぶ会、pao na miu、鉢ヶ峯の自然を守る会、はなはなね、浜寺公園自然の会、pumpum、J、リネオカマラポ
ジエクト、株式会社自然神楽、ピーフォレストクラブ、PIZZA ROTTO、ピッツァアピロ、兵庫県立淡路県立高等学校、兵庫立大学、淡路
緑葉キャンパス、pyopyopyobrand、おたけの調査会、PUPUPU Petit @ Petit BAKERY CAFE、株式会社文一総合出版、ベルボ
ン株式会社、HODAKAHORA、好き好き中学校教師の会、本山寺自然環境保全地域を考える協議会、まーりん工房、松葉画館、M.A.F、
まもってん、やろやろカブ、二、マンボウなんでも博物館、南大阪自然史博物館、人理自然の会、野鳥生活、淀川管内河川リハビリテー
ションセンター、バ保安全市民ネットワーク、リコーイメーシング株式会社、わんこビーズ&MALEFICA、(50音順)

18日

日

シンポジウム

自然体験×SDGsで見つける 2030年の世界

生物多様性の保全をめざしてもなかなか社会のあり方を変えるところま
では届きません。福祉や教育など様々な分野、企業、行政、市民など様々
な立場の協働から考えます。

11月18日(日) 10:00~12:00 / 主催：大阪市環境局、SDGs市民社会ネットワーク

内 容

- 「SDGsに掲げられた複数課題をどのように同時解決するか」
SDGs市民社会ネットワーク
- 「行政と市民・専門機関等との連携の必要性」
大阪市環境局
- パネルディスカッション ※詳細はHPでお知らせします。

シンポジウム

みんなで調べるタンポポ、マルハナバチ、 外来生物 - 市民調査への参加のススメ

広くたくさんの方に参加してもらって実施する生きもの調査を、市民調
査といえます。大阪府の市民調査の歴史は長く、40年以上の歴史を誇る
タンポポ調査があります。そして、さまざまな市民調査に率先して取り組
んできた大阪市立自然史博物館もあります。近年は日本各地でさまざま
な市民調査が実施され、マルハナバチ類国勢調査のように全国規模で展
開している市民調査も少なくありません。市民調査に参加する楽しさと、
参加する意義を紹介いたします。

11月18日(日) 13:30~15:30 / 主催：関西自然保護機構

内 容

- 「市民参加型調査としてのタンポポ調査」
木村 進(タンポポ調査・西日本実行委員会)
- 「あなたの写真がマルハナバチを救う!?」
市民参加型調査『花まるマルハナバチ国勢調査』
大野ゆかり(東北大学生命科学研究科)
- 「外来生物、みんなで調べるとこんな事が判る
バッタに貝にハッカチョウ」
和田 岳(大阪市立自然史博物館・学芸員)

